

## 五重相伝（親から子へ、子から孫へ受けつがれること）

おかげさまで、この『あみたあばあ』も第25号を迎えました。この四半世紀の間には、阪神淡路大震災という谷もあり、新伽藍の造営落慶という山もありましたが、毎夏休むことなく続けることができました。これもひとえにご本尊阿弥陀仏のご加護と檀信徒の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。

さて、わが国では、一般に日本人は信仰心が薄いと思われがちです。しかし、2004年度の文化庁の調査によれば、481の教団、宗派などの包括的な宗教組織（仏教系195、神道系167、キリスト教系83、諸教系36、浄土宗もこの内の1つ）、個別的なものでは18万超の組織があります。そして、それぞれの信者数を合計すれば、総人口を遙かに超える数字が出てきます。これは、松林寺の檀家であつて住吉神社の氏子であるということが普通であるように、全国津々浦々で同様に重なつて数えられた結果です。それにしてもこの数字からは、日本人の信仰心が薄いなどということはないだろうと思います。

妖怪の座敷わらしや河童の研究でも有名な柳田国男の日本民俗学では、ご先祖様を祖霊としてお祀りすると宗派を超えた日本人の心性があるといわれます。お盆の精霊棚や盆踊り、七夕のはた飾り、お正月の床の間の鏡餅もすべてご先祖様へお供えするためのものです。その意味において、家のまつりごととして、親から子、子から孫へと代々受け継がれてきたものであります。

いきなり、「あなたの信仰するものは？」とキリスト教的な一神教の個人的信仰心の意味で問われれば、答えにとまどうことはあたりまえかもしれません。宗派を超えたことでもあるので、よけいに具体的な答えにくく、信仰心が薄いのかもしれないと感じることになります。

では、わが国では個人の信仰はどうでもよかったのかというと、もちろんそんなことはありません。

仏教においては、各宗派で「能化（のうけ・僧侶）と所化（しよけ・在家信者）それぞれ別に修行方法を定めていました。在家信者のために、禅宗では授戒会がありますし、浄土宗も授戒会と五重相伝があります。これは、家代々の檀家としての宗派の教えを個人的に受者として学び、信仰心を確立する大切な機会でもあります。日頃、ご家庭で何気なくお仏壇の前で行っていることの意味から始まり、それぞれの宗派が教えの肝要としていることを身につけることができるものです。

松林寺では、来る平成22年5月1日から五日間、五重相伝を開筵（かいえん）いたします。この五重相伝で相伝されるものこそ浄土宗の檀信徒として必要な安心（あんじん・確立した信仰心）であり、お念仏の教えの真髓を親も子も孫もご先祖様から続く各世代が、時代は移り変われども同じ菩提寺の本堂で、それぞれの時代に即応しながらの説法によつて相伝されてきたのです。

授戒会と五重相伝は別々のものですが、当山では五重相伝において、授戒の作法をさせていただきます。仏弟子になった証しに「お戒名」をお授けいたします。さらに、お釈迦様から代々受けつがれた血脉相伝という儀式を通して五重相伝の相伝者となったという意味で、「譽号（よごう）」をお授けいたします。

前回、平成2年の五重相伝から今年ですでに18年、当時の『あみたあばあ』を読み返すと、まだまだ外面的な形にとらわれていたことを感じます。20年目の五重相伝にあたつて、伝灯師として、日々、お念仏の本質に思いをいたして研鑽し、お忙しい中を五日間の時間を割いていただいた受者の皆様に限られた時間のなかで、端的にお念仏の心をお伝えしたいと願っております。



あみたあばあ

あみたあばあ



浄土宗 松林寺

<http://syourinji.com>



No.25